

戦争を欲する国になってしまうと後戻りできない。  
 今なら企業が市民や消費者の反応を恐れています。

←神戸・長田の喫茶店で



武器輸出反対ネットワークをつくり、  
 市民の声を企業に届けようと活動している

杉原浩司さん

脱原発の市民運動をはじめ緑の党から東京都議会や区議会選挙に出たり、いまは武器輸出問題にしばって活動を続けている杉原さんのことは311以降気になってきた。ちょうど神戸で講演会をやるのを知り、約束して話を聞かせてもらうことができた。長年の市民運動の経験はぜひ広く共有すべきものだと思つたし、日本が武器輸出を解禁したその先にはアメリカのように戦争がなければ成り立たないような国になってしまうこともよくわかった。戦争法もリニアも共謀罪も大変な問題だが、武器輸出問題にも注意を向け、日本の企業が戦争を欲するというダークサイドに落ち込まないように監視していくのは、日本人にとって大事な使命ではないだろうか。

(あ)

— 日本の武器輸出はいつごろから始まっているんですか？

杉原●実は、戦後日本は武器輸出をしていました。1967年の佐藤栄作内閣、1976年の三木武夫内閣によって武器輸出三原則が形づくられました。それが、中曽根政権の時にアメリカ向けの武器技術の供与が解禁され、小泉政権の時にアメリカとの「ミサイル防衛」共同開発を三原則の例外としました。

そして、野田政権の時に国際的な武器の共同開発を丸ごとOKにしたのが最後の決定打になりました。そういう経緯もあって、安倍政権は全面的に書き換えるしかなかったという面もあります。

だから、民進党が政策を見直して、武器輸出三原則をもう一度取り戻すことを確認してくれないと、政権が変わっても方向性自体はそれほど変わらないということになりかねないのです。

安倍政権は2014年4月1日に武器輸出三原則を閣議決定だけで撤廃しました。「国是」とまで言われた三原則を撤廃するのなら、衆議院と参議院の両院で国会決議をやってタガをはめたものなので、本来なら最低でも全会一致の国会決議をあげなければいけない。でも、国会も私たち主催者も完全に無視されたんです。当時の世論調査でも武器輸出三原則撤廃に反対する人が約6割いました。そうした民

意も無視して、たかが10数人の閣僚の決定だけで「防衛装備移転三原則」へと大転換させたのです。

— 原発でも武器でも何でもいいからいかに儲けるかとか、そんなことしか考えてない人たちがいますね。そのために軍事技術はどんどん進んでるわけです。

●すでに映画でも軍用ドローン(無人機)をテーマにしたものがいろいろ出てきています。「DRONE OF WAR」など、とても参考になる映画でした。レンタル店で借りられます。

— 最先端の軍事技術ということで映画にもなってるんでしょうね。アメリカにとっては自国の兵士が死なないから世論受けもいいでしょうけど、実際にはまがえて民間人をけっこう殺してますよね。

●間違えてじゃなくて実際にはわかって殺してるんです。ドローンを使っているのはアメリカの空軍とCIAと両方あるんですが、特にCIAがやる作戦はすごく悪質です。そこにターゲットが一人でもいれば、葬式などで集まっている人たちが20人、30人いても平気でミサイルを撃ち込みます。それは「誤爆」でもなんでもない。1人殺すことがアメリカの安全にプラスになるなら、ほかに何十人巻き

添えになろうとも構わないと。でもそうした作戦には、兵士も耐えられなくなる。上空の戦闘機からミサイルを撃っても誰を殺してるかわかりませんが、無人機だとかなり精密なカメラで映し出されるので、子どもが殺されるのもわかります。そうすると精神的にきつくて辞める兵士が増えて、米軍も困っています。だから最近は民間の軍事会社に一部委託したり、以前は1機を2人で操縦していたのが、それじゃ人が足りないから2人で2機3機を同時に操縦できるものを開発したりしています。

— それは明らかに犯罪ですね。アメリカはいずれ天罰を避けられないでしょうね。

●戦争犯罪そのものです。オバマ大統領は国際刑事裁判所(ICC)に訴追されるべきです。パキスタンのナビラ・レフマンさんが無人機攻撃の実態を訴えたいと昨年11月、来日されました。彼女は11歳当時、畑に出ていたら、目の前でアメリカの無人機の攻撃によっておばあさんを殺され、自分も怪我をし、戦争によって故郷を追われて国内避難民になっています。彼女が訴えていたのは、無人機につき込むお金があったら教育に回してくれと。それが地域の貧困を解決するし、「テロリスト」と呼ばれる人たちも出なくなるんだと訴えていました。やっぱりそこに立ち返るべきだと思

ます。

またアメリカの内部からも無人機攻撃についての告発の声が出てきています。空軍の元無人機パイロット達が勇気を出して「無人機攻撃は現地の住民の憎悪を拡げて、むしろアメリカの安全を脅かす」「無人機攻撃によってテロが引き起こされる」と告発しています。

——日本はその無人機の共同開発をイスラエルとやろうとしてるそうですね。

●まだ水面下の動きですが、防衛装備庁の内部にイスラエルとの共同研究を志向する流れがあります。また、軍事研究への助成金制度を防衛省が昨年度からはじめていて、昨年度3億円、今年度6億円だったんですが、来年度予算案はなんと110億円と18倍に増えました。そして、防衛省が公表した20年先を見据えた武器開発戦略である「防衛技術戦略」なども大変危険です。その背景にあるアメリカの武器開発戦略については、ニューズウィーク日本版の2016.12.13号「未来の戦争」でも紹介されていて非常に参考になります（\*アマゾン等で中古本入手可能）。

そこに「AI（人工知能）とロボットが変える未来の戦争」という文章があります。アメリカの無人攻撃機はまだ人の手がかかっています。ラスベガス近郊のトレーラーハウスのような基地から、2人セットでボタンを操作してアフガニスタンなどにいる無人機からミサイルを発射するわけです。今後はそれにAI（人工知能）を組み込むことになる。イスラエルの自爆型ドローンや完全自動運転の軍用車が既に運用されています。ポイントになるのは最先端の民生技術です。今までは軍の研究所や軍需産業が研究開発していたんですが、それだけでは敵に優越する武器開発ができないということで、民間企業の技術者や大学の研究者を巻き込む動きを強めています。優秀な民生技術を取り込んで軍事的なイノベーションを加速させ「技術的な優越」（防衛省の文書でもキーワードになっています）を達成する。それによって戦争に勝つという戦略を、いまアメリカがとっています。これは「第三の相殺（OFFSET）戦略」というんですが、では第一と第二は何かということ、50年代に始まる核抑止力によるソ連封じ込めが第一の相殺戦略、第二の相殺戦略は70年代からはじまった、精密誘導兵器やステルス航空機等で他国の通常兵器を圧倒したものです。そしてここ数年アメリカが取り組んでいるのが第三の相殺戦略で、先端技術を取り込むことで高度な武器を作っていく。その要となるのが人工知能やロボット、自律型武器で、まさにSFのような世界です。そういうSFを現実にするような戦争の段階にいまイスラエルやアメリカが踏み込みつつあって、防衛省の文書のネタ元もそれ



なんです。要するにアメリカ様と一緒にあって、事実上は下請けですけど、アメリカの高い武器を買いながら、日本の民生技術をアメリカやヨーロッパの武器に提供していこう。それによって日本の企業も商機を得るといって戦略に日本も舵を切る。その歴史的な文書がこれなんです。

防衛技術戦略の付属文書である「中長期技術見込み」では、優先的に技術開発すべき分野として3つあげています。1つめが無人化、ロボット化。2つめがスマート化（これは人工知能のこと）やネットワーク化。そして3つめが高出力エネルギー技術。これはレールガンという電磁波砲などレーザー兵器のことです。爆弾ではなくレーザービームのような兵器で敵と戦うと。これはものすごい電気を使いますが、一発あたりのコストは安いそうです。そして非常に遠くまで精密に当たるといって、米軍が10年後に実戦配備をめざして開発しています。そこに日本もついていこうというわけです。実はすでに大阪大学に米軍からレーザー技術の研究資金が3000万円とか出ています。防衛装備庁もそういうところに資金を入れていこうと、大学や民間企業を巻き込もうとしています。

こうした危険な文書を防衛官僚が勝手につくって、国会を無視して、予算案に研究費を入れてくるんです。こういうやり方自体がおかしいのですが、まだマスコミもぜんぜん騒いでいません。

——そういう動きに対して何ができますか？

●民主党政権の時に防衛大臣をやった森本敏さんがBSフジの番組でこう言っています。なぜ潜水艦のオーストラリアへの売り込みに負けたのかということ、企業が「武器商人」という悪い評判をたてられることを気にして、そこまで苦勞して乗り出すことにメリットを感じなかったからだ。ポイントはここなんです。森本さんが思うに、企業が積極的にやらない。なぜかということ、消費者、市民の反応を恐れている。彼は、国際航空宇宙展では「武器本体の輸出よりは共同開発の方が可能性があるんじゃないか」とも言ってるんです。です

から、市民が企業に対してハガキやFAXを送ったり、電話をすることが確実に効果的なんです。安倍政権を変えることは簡単にはできず、時間がかかります。ただ、企業が関与しなかったら、武器輸出も共同研究もできません。そこに市民が声を上げることの積極的な意味があるし、実際に効果をあげてきています。

——市民運動に関わるようになったきっかけは？

●もともとは鳥取の出身で、京都教育大学に行ったんですが、その途中で市民運動をやっている人にひっかかったのが運のつきで(笑)、さいごは大学を中退して、この道に打ち込むことになったという流れです。もうだいぶ前の話ですけどね。

いろんな運動に関わりましたが、京都にいたころは反トマホークという反核運動が盛んで、冷戦終結前の米ソの軍拡競争の最後のころでした。メインテーマとしては昔から平和の問題が大きいです。

——緑の党にはどうして関わるようになったんですか？

●もともとは、前身の「みどりの未来」、その前の「みどりのテーブル」に関わっていました。大学時代からドイツ緑の党が日本でも紹介されていて、自分でいろんな本を読みかじったりしました。まわりにもそれに関心を持っている仲間が多くて、こんな政党が日本にも絶対必要だなという思いをかなり前から持っていました。最初はそんなに積極的に関わってたわけではないんですが、「みどりの未来」くらいから積極的に参加するようになりました。

——それは市民運動に関わってきた、政治がやっぱり一つのキーになると思ったわけですか？

●そうですね。運動をやっていても限界を感じることは何度もありましたし、政党政治が悪くなっていくプロセスを見てきましたから。だって野党第一党だった社会党が今はわずか4人にまで落ちてるわけですしね。かつては土井たか子さんが党首で、市民派と呼ばれる議員をたくさん誕生させた頃があったじゃないですか。消費税反対で「山が動いた」と言って、福島瑞穂さんなど女性で市民運動をやっていた人たちがずいぶん当選しましたね。

ところが、土井さん自身が小選挙区制の導入に加担してしまい、自衛隊も海外に行くようになり、政党政治は厳しくなっていました。市民運動はかつてのような野党頼み

→ 国際航空宇宙展会場前でのデモンストレーション

のスタンスでは限界に来ているとずっと感じてきました。

—— 脱原発の方は3.11の前から関心はあったんですか？

●それまでも関心はあったんですが、大きな集会や行動に参加するくらいでした。反戦運動、平和運動をメインテーマでやってきていたので、でも、さすがにあれだけの原発事故が起きてしまうと、「これはやばいな」と思ったし、そういう人が多かったと思います。それで平和運動はもうほっぽって、2、3年くらい、脱原発いっばんでやりました。大飯原発の再稼働の時などは保安院や原子力安全委員会に毎回傍聴に行って、激しく抗議したりやじったりしてましたね。

—— その様子、ネットTVかなにかで見ました。椅子をいくつも乗り越えて追及してましたね。

●やじるのもけっこう緊張するんですよ。いかに効果的なヤジを言うか、ポイントを押さえてその場を制するようなヤジができるか。頭を使ってメモ書きしながら、緊張しながらわーっというわけです。それに、傍聴の前に周辺で必ず集会をやってアピールしてましたね。けっこう大変でした。でも、そうやって市民がプレッシャーをかけたことに何かしらの意味はあったと思いますね。それだけ見張ってるぞと。ふざけたことをやったら絶対許さないというプレッシャーを絶えずかけるわけですから。大飯原発のときは官邸前にも10万人規模で集まりましたよね。

—— そして原発のあとに武器輸出の問題をやるようになったんですか？

●第二次安倍政権が誕生してもう4年ほどたちますね。国家安全保障会議の設置や武器輸出の解禁、秘密保護法の制定、集团的自衛権の解釈変更「安全保障法制」と様々な動きが一気に表面化しました。さすがにこれはやばいなと思ったんです。

もともとミサイル防衛システムに反対する運動を10年ほどやっていました。要するに北朝鮮や中国の弾道ミサイルを打ち落とす迎撃ミサイルをアメリカから買ったり、一部は日米共同開発までしています。

日本がこれまでPAC3という地上配備型と、イージス艦から打ち上げるSM3の2種類を配備しています。これから米軍が韓国にTHAADを配備しますが、日本も導入に向けた検討を始めたところですよ。

—— 京丹後のXバンドレーダーとTHAAD



ミサイルはセットになってるそうですね。

●そうですね。2000年の秋、アメリカのメーン州に暮らす平和活動家のブルース・ギャグノンさんという人が長崎の反核市民集会に呼ばれて、そのあと広島、京都、東京とスピーキングツアーが行われたのですが、彼の話聞いてすごい衝撃を受けました。荒唐無稽とも思える宇宙への兵器配備をアメリカが本気で構想し、ミサイル防衛もその一環に位置づけられていると。日本もその導入に向けた検討を始めているというのです。

当時はブッシュ政権でラムズフェルドというとんでもない男が国防長官を務め、まさに軍需産業の代理人でした。ミサイル防衛や宇宙の軍事化はお金になるいいビジネスです。次々にシステムを更新して、半永久的にお金を儲け続けられる美味しいシステムなんです。そのために北朝鮮が危険だと脅威を煽り、だから必要だと言うわけです。ミサイル防衛や宇宙の軍事化に反対する世界のNGOが、「宇宙への原子力と兵器の配備に反対するグローバルネットワーク」をつくり、ブルース・ギャグノンさんがそのコーディネーターだったんです。

友人達と、「核とミサイル防衛にNO!キャンペーン」という市民団体を立ち上げて、3.11の前まで10年ほど、ミサイル防衛反対を中心に武器輸出反対も含めた運動を地道に続けました。その下地のうえに、いまの武器輸出反対の取り組みがあります。ここでこの問題に取り組むのが自分の役割ではないかと思い、力を注ぐことにしました。

武器輸出三原則が撤廃されたのはもう2年半以上前ですが、今回、武器輸出反対ネットワーク(NAJAT)を立ちあげたのはちょうど1年前の12月です。今からでもやらなきゃ、まだ間に合うという想いで始めたんです。

—— 武器輸出の話題は最近ようやくTVなどのマスメディアでも報道するようになってきましたが、まだまだ知られていない気がします。

●そうですね。武器輸出や軍学共同はすごく本質的な問題で、日本の今の国のかたちを大

きく変えるものだと思います。いわゆる「原子カムラ」と同様の「軍産学複合体」を日本に作っていく最初のステップになると思います。これがもしずるずると作られてしまえば、これは一緒に出した本で古賀茂明さんが言っていることですが、「戦争できる国」だけじゃなく「戦争を欲する国」になってしまう。そうなると後戻りがきかない。今ならまだ、政権が前のめりでも企業が躊躇している。企業に働きかけることで動きをにぶらせたり踏みと

どまらせることが可能なタイミングだと思うんです。悪い意味での実績ができてうま味を覚えてしまうと、もう中毒になってしましますからね。

—— それで食っている人がいっぱいいるんだってことになりますね。原発と同じで。

●今はまだ日本の企業は、軍需の比率がすごく小さいんです。三菱重工とか川崎重工でもせいぜい10%程度なんです。ほかの電機メーカーなどは数%です。

—— 今ならやめても問題ないわけですね。

●自衛隊向けの武器開発も本当ははやめさせたいのですが、当面そこまでいなくても武器輸出だけは止めてくれと、そこだけは線を引いてくれというふうに訴えることは有効だと思ってます。

—— でも前は武器輸出三原則があったし、ほかにもいろいろ歯止めがあったのに、もうやすやすと乗り越えて何でもありみたいな感じですよ。

●政権の裁量でほぼ何でもできる状態です。閣議決定すれば何でもオッケーみたいな。だから僕らができることは企業に対して集中的に声を届けて、死の商人にならないでほしいと。そこでまず歯止めをかけて、動きをにぶらせて、その間に時間を確保して政治を変える。それこそ安倍政権を退場させる。ただ、今の民進党のままで政権をとってもほとんど変わらないから(笑)、今の段階から民進党にロビイングをして、プレッシャーをかけ、政策を見直してもらおう。

そのためには僕らだけが動いたって弱いんです。もっと見える形で市民が武器輸出に反対しているというムーブメントを作らないと、民進党まで変えさせるのは難しい。去年の安保法制の時ほどでなくても、武器輸出反対でせめて1000人のデモをするくらいの力を持たないと。

僕らはそんな大きな団体でもないですけど、まあこの一年は突っ走ってきて、それがあ

る程度は効果をあげているような気がしています。メディアの反応も、いくらプレスリリースしても、一緒に本を書いた東京新聞の望月さんと、神奈川新聞の熱心な記者さん、たまに共同通信、あとはフリーの人くらいしか来てくれなかったんですが、ここ1ヶ月くらいになってようやく毎日新聞やNHKから取材があり、関西の読売テレビでも10分くらいの特集をやって僕も少しコメントしたりして、少し変わってきたかなと。その番組はネットでも「かんさい情報ネットten」のホームページで12月1日放映分を探したら見られます。よくまとまっています。

そしてつい昨日の夕方、NHKの「特報首都圏」という首都圏ローカル番組で軍民両用技術のテーマをやっていました。

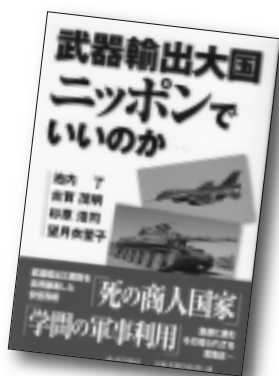
少しは存在が認知されてきたのかなと。武器輸出に反対している人たちのこともきちんと扱うべきだとメディアの側も考え始めてるのかなと最近感じますね。

——古賀さんとか何人かで本を出されてるんですね。

●9月23日に発行して、まだ2ヶ月くらいです。共同執筆者は、今年2月の武器輸出反対ネットワークの発足集会で発言したのが4人です。古賀茂明さんはお忙しかったこともあり、僕がインタビューしてまとめました。あとの3人は書きおろしで、それぞれの持ち味を生かしたタイプの違う文章です。池内了さんは研究者として軍学共同について、経緯からまとめたものを書いてもらいましたし、東京新聞の望月衣塑子さんには、潜水艦の輸出に焦点を当てて、今起きている具体的な状況のルポを通して企業の本音と建て前をうまくすくい上げてもらいました。僕は運動的な側面をストレートに書いた感じで、四者四様、ポジションも多様で世代もちょうど10才違いくらいとバランスのとれたものになりました。

(共著)  
池内了  
古賀茂明  
杉原浩司  
望月衣塑子

四六判  
187p  
あけび書房  
¥1500+税



——もともと最初に市民運動をやり始めたきっかけは？

●僕は鳥取の出身ですが、親の影響がありますね。母が中学校の教員をやっていて、創刊号

の朝日ジャーナルから、いろんな社会問題の本がけっこうありました。貧乏学生で、飯も十分に食べずに本を買ったりして、栄養失調にもなったりしいんですが。高校生の頃とかヒマな時にその昔の朝日ジャーナルを読んだり、TVを見ながら多少世の中の事を親と話したりすることを通して、社会的な関心が生まれたんだと思います。

そんな下地のうえに、京都での学生時代にチラシを配っていた人と立ち話をしたのがきっかけで、市民運動に参加するようになったんです。当時は中曽根政権で、あのときもひどい政権でしたから、いろんな活動をしていました。チラシを配ったり講演会をやったり、他のグループと合同でいろんなアクションをやったり。

おぼえているのは、当時、寄せ場の日雇い労働者の運動がけっこう取り組まれていたんですが、山谷のドキュメンタリー映画を撮っていた佐藤満夫さんという映画監督と佐藤さんの後をついだ山岡強一さんという労働組合のリーダーが、寄せ場を仕切っていた暴力団関係者に殺されるという事件があったんです。ひどい話なんですけど、その後他の人が引き継いで、「山谷〜やられたらやりかえせ」という映画を完成させて、全国各地で自主上映をやったんです。京都でもいろんな大学の学生が実行委員会をつくって、何度か上映しました。

——今はアメリカでトランプ政権ができて、日本にも当然影響があると思いますが、これからどうなっていくと思いますか？

●学者の会など安保法制反対で活動されている西谷修さんと時々顔を合わせるんですが、彼が話していたのは、トランプの登場にみんなびっくりしてるけど、日本は先を行ってる。安倍さんがもう4年くらいやってるじゃないですか(笑)。たしかにそうだなあと。女性蔑視、レイシズム、民族差別など含めて、本質的にはトランプと変わらないです。アジア太平洋戦争を侵略とは認めないわけですし。ヨーロッパだったら絶対ありえないでしょう。

——ヨーロッパに比べてアジアはまだまだ後進国ですね。日本を含めて。

●東アジアは厳しいですね。むしろ日本よりも韓国、台湾、香港なんかの方が民主主義という意味では先に行ってますね。香港は中国の圧力で厳しいとはいえ、人々の主権者意識などは日本よりも進んでいると思います。日本の場合、完全にアメリカの属国の奴隷状態ですから。そうじゃなかったら沖縄にあんなひどいことをできないですよ。僕らがもっとしっかりしないと。



←神戸・長田での講演会

——韓国ではさいきん200万人がデモしましたが、人口比でいうと日本だと500万くらいになるらしいですね。そういう日が来るのかちょっと信じられないです。

●たぶんないですね(笑)。まあそこまでは求めないけど、50万人くらいは、10万人くらいで喜んでいても、まだ弱いですね。

——日本人がそうなってるのは、どこに原因があると思いますか？

●いろんな要素があると思うんですが、昨日も京大で集まりをやった時にパレスチナ問題に取り組まれているアラブ文学研究者の岡真理さんと話していたら、学生が自分の意見をぜんぜん言わないというんです。なにか意見を言うことによってまわりから浮いて見られるという意識にとらわれていて、でもしつこく聞くと発言するらしいんです。それもわりとしっかり言うんだと。だから考えてはいるんですが、自分から言わない。それは教育の「成果」なのでしょう。社会の中で十数年生きていく上で身につけてきた、ひとつの処世術ですよ。人と違ったことを言うと叩かれる、いじめられる。だからそういうことを思わせる学校や、親も含めたまわりの環境がすごく問題で、ある意味恐ろしいですよ。

むしろ本来なら若い人は多少叩かれようが自己主張してはねるみたいな、そうあってほしいじゃないですか。

——昔の学生運動なんかはそんなかんじでした。

●そう、もちろん行き過ぎもありましたけど、必死で学び吸収して変えるんだという純粋な気持ちがありましたよね。でもそれから40、50年たつてここまで若い人たちが自分を抑制していくようになってしまっている。若者は一つの社会の鏡ですから、そういう社会を大人が作っているということです。その現れがマスメディアの安倍政権に対する忖度であったり、学校教育のありかた。昔から言われていますが、ものを考えたりディベートする力をぜんぜん養わないで、決まった答えを覚えさせたり人と合わせることを教える。そうい

う仕組みは企業の中にもはびこっていて、自分たちの権利を主張することや、そもそも権利さえ教えられていない。だから若い人たちは「ブラック企業」ですり減らされて使い捨てられるわけですよ。

——そして自殺してしまったり。

●自分の権利を覚えていれば、そこで闘えるわけですが、「残業代払ってください」と要求すべきなのに、わからないから泣き寝入りする。そういう自分たちの人権とか尊厳を自覚



できなくさせる学校であったり企業であったり家族であったりが、根深く隔々にまではびこってしまっている。その最大の現れがいまの安倍政権の姿だと思いますけど、そういうところを一つひとつきちんと見据えて変革していくことに取り組んでいかないと、なかなか変わらないかんじがしますよね。

それこそ残業に追われている正社員とか、非正規の人も先が見えない中でかつかつの暮らしをさせられて、世の中のことを学ぼうとか考えようという余裕もないし、きっかけもない。これだけSNSが発達していても、その中で本当にまっとうな情報にアクセスできるかというところでもない。一般の若い人たちが、これはほんとに確かな情報だとか、ここから広がっていくんだという情報を市民運動

がどれだけ用意できているかという、負けてると思うんです。マスメディアとかそれこそネトウヨなどの情報に。

——今まで市民運動やってきた中でいろいろ学んだことってあると思いますが、印象的なことは？

●阪神・淡路大震災のあとに、亡くなられた小田実さんが中心となり市民＝議員立法運動を起こしました。生活基盤を回復するためのきっかけとして、壊れた住宅の再建に国として公費を出せと要求して、市民が法案をつくり、超党派の議員や法制局といっしょに法案を練り上げました。最終的に自民党も賛成して、不十分な形でしたが、被災者生活再建支援法を作り上げたんです。

その時に僕は東京の事務局のメンバーとして、1年半くらい、一生懸命取り組みました。もともと震災直後から神戸に物資を届けに来たり、ボランティアの呼びかけや支援の呼びかけを送るFAX市民情報というのを東京で作ったりして活動してたんですが、それをベースに、小田さん達が呼びかけた市民＝議員立法運動に参加しました。国会議員をずいぶんまわりましたし、集会、デモ、街頭アピール、記者会見というんなことをやって、一定の成果をあげたんです。

それぞれの専門家がいて、法案のたたき台は大阪弁護士会の伊賀興一さんが中心に作り上げました。居住福祉の専門家である早川和男さんもサポートしてくださったり、さいごは参議院法制局の人たちが議員といっしょに法的な詰めをやってくれて、そういう何重ものプロセスを経て法案をつくったんです。紆余曲折があっただけでたいへんなことも多かったんですが、苦い経験も含めて勉強になりました。貴重な経験でしたね。

ただ、その法律は阪神大震災には適用され

なかったんです。時間を遡っては適用されないという限界があったんです。でも、それをわかっていて、神戸の人たちは持病をかかえた人も年寄りも、夜行バスで何度も東京に来て、議員に対して一生懸命働きかけて必死で作らせたんです。自分たちの被害の補償は当然してほしいけど、たとえそれができなくても、これから起きる災害で自分たちのような目に遭う人たちが出て欲しくないからと。そのおかげで、まだまだ金額も上限300万だし、半壊には支払われないなど不備も多いんですが、それまで何もなかった仕組みが日本にできて、その後の災害には適用されているんです。

自分たちで法律をつくり制度をつくるという意味で画期的な運動だったと思います。市民運動は今後もそういうことにチャレンジしていくべきだと思いますね。

——それは貴重な経験ですね。それを市民運動の中で伝えていく必要があるでしょうね。

●そういう経験をもっときちんと伝えていかないといけないと思います。ふだん、なかなかそういうことを伝える場もないし、運動もテーマごとに分かれていて、連携はまだ弱いんですね。成功や失敗の経験を共有するとか、横のつながりが大事だと思います。それぞれのテーマを超えて意見交換する場をつくるか、風通しのいい、市民運動の中での横断的な情報共有の場ができればいいと思います。●

-----  
\*この取材は2016年12月なので、話しの中で「今年」というのは2016年のことです。

**武器輸出反対ネットワーク (NAJAT)**

FAX : 03-5225-7214

メール : anti.arms.export@gmail.com

ブログ : <https://najat2016.wordpress.com/>